

事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
政策名	(I)みんなで築くまち《協働・行政経営》	所属G	チャレンジ創生G	課長名	熱田勇二
施策名	(01)市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	須山雄介	電話番号	0854-40-1011
目的	対 象 市民	意 図	まちづくりの課題を主体的に解決する。		
基本事業名	(002)まちづくりの人材確保	予算科目	会計 款 大事業 大事業名	企画総務管理事業	
目的	対 象 活動している市民	意 図	活動のリーダー・担い手を確保する。		
			0 1 1 0 0 1	中事業	コミュニティキャンパス推進事業
			0 5 3 5 2 1	中事業	業

1 現状把握 [DO]

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (27年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) 大学機関や地域、市内で活動するNPOと連携し、大学生の学びのフィールドとなる「雲南コミュニティキャンパス」(通称:UCC)を開校して、フィールドワークやインターンシッププログラムを通じて雲南市の地域課題を解決する課題解決人材を育成し、社会増につなげる。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	27年度実績(27年度に行った主な活動) ・事業ビジョンの策定 ・事業ビジョン策定に向けた5つの試行プログラムの実施	28年度計画(28年度に計画する主な活動) ・スタートアップ合宿(開校式)の開催 ・インターンシッププログラムの実施 ・成果報告会の開催 ・平成29年度計画の作成			
	② 活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	ア 事業ビジョンの策定	式			1	0
	イ (試行)プログラムの実施	回			5	3
	ウ 推進委員会の開催	回			0	2
	エ 全体会等の開催(開校式・成果報告等)	0			0	2

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	① 市民 ② 学生	ア 人口(推計人口)	人	40,055	39,472	38,990	38,968
		イ 大学生数(文科省調査)	千人	2,869	2,856	2,860	未公表
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	① 積極的に学生と交流する。 ② 雲南市の地域課題を知り、地域等と解決に向け取り組みを行う。	ア UCCに参加をきっかけにUターンした雲南出身の学生数	人			0	1
		イ UCCに参加をきっかけにUターンした学生数	人			0	2
		ウ UCCをきっかけに市内の地域活動に複数回参画した学生数	人			15	18

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (27年度決算)	② コストの推移	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(計画)
・委託費(ビジョン策定支援) 1,253千円	財源内訳	千円			1,253	7,895
合計 1,253千円	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円				540
	事業費計(A)	千円			1,253	8,435
	人件費	人			2	
	正規職員従事人数	時間			1,000	
	延べ業務時間	千円			3,914	
	人件費計(B)	千円				
	トータルコスト(A)+(B)	千円			5,167	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
総合戦略の重点プロジェクトの1つとして位置づけ、事業推進を図っている。また、これまで本市に関わった学生から、他大学の学生とのネットワークや学び合いの環境を求める声がある。	H27年度はビジョン策定とフィールドワーク等の試行プログラムを行い、H28年度より本格的に実施する。H28年度の取り組みについて振り返りを行い、事業の改善を図る。	これまで積極的に大学生を受け入れた地域から、今後も学生の意見等を取り入れ地域課題解決に取り組みたい要望がある。また、大学からも地域内での活動を推進することにより、学生の育成を進めたい要望がある。

事務事業名	コミュニティキャンパス推進事業	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	* 余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	* 余地がある場合 →	
	③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である	* 余地がある場合 →	
B 有効性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	H27の試行プログラムの振り返りとして、課題解決の促進と人材の定着を進めるため、学生の動機づけを高め、地域と学生のマッチングを促進し、学生が継続的に地域でチャレンジしていく取り組みとすることが必要である。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
	<input type="checkbox"/> 影響無	理由	大学機関のない本市において、学生は高校卒業とともに本市から離れてしまう。本事業を廃止すれば、学生を課題解決人材として育成する機会を失い、子ども×若者×大人のチャレンジの連鎖の推進に影響がある。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある	* ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	大学連携事業	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる			
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由	本事業は、大学生が地域等とともに課題解決に向け取り組みを進めるフィールドワーク等を行うことにより、課題解決と学生の課題解決スキルを高める事業であり、大学連携事業は市の課題解決を大学機関に委託し取り組みを行う事業であるため、統合できない。	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	大学若しくは大学生より対価を獲得することにより、市の事業費負担の削減をめざす。	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	将来的に、本事業をNPO等が自立して実施できる体制へ移行を進めることにより、人件費の削減をめざす。	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない			
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	市内の地域課題の解決を図り、市全体のまちづくりに寄与する事業であり、公平・公正である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	H27年度はビジョン策定と試行プログラムを実施した。H28年度より本格実施する中で、ビジョンや成果指標等の達成状況を振り返りながら事業を推進していく。雲南市をフィールドに学生のチャレンジを生み出し、人材育成を図りつつ人材増につなげる事業は他になく、チャレンジの連鎖を推進するため重要な取り組みである。	
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり		
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	●			維持			×	低下		×	×
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上	●																						
	維持			×																				
	低下		×	×																				
<ul style="list-style-type: none"> ・事業ビジョンに従い、スタートアップ合宿やインターン等のプログラムを実施する。 ・大学生の育成と人材の定着を意図し、各プログラムにおいて学生へのアンケート調査などを行うとともに、学生の専攻や就業希望職種などのニーズに合ったプログラムを企画し、より効果的な事業になるよう事業改善を図る。 ・各プログラムにおいて、所管部局間の連携をより一層進めるとともに、推進体制に地域や大学機関等の参画を得ることにより、取組内容のレベルアップや認知度を高め、学生の定着につなげたい。 	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																							